

既得権・慣行の剝奪攻撃を許すな



動労千葉

82.5.4
No.1035

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五・六(会報)三三三二七・二〇七

「職場規律の確立」は、明白な国鉄労働運動解体攻撃

政府・自民党、オニ臨調、国鉄当局、一体となった国鉄労働運動解体攻撃は、マヌコミによる「ヤミ・カラ」「悪慣行」などを前面化した世論操作を背景にした「職場規律の確立」攻撃として、いよいよ職場・生産点を直撃するものとなってきました。

三月四日、東京三局の各組合に対する「職場規律の確立」についての申し入れが行なわれたのに続いて、三月二三日、千葉局においても、動労千葉をはじめとする各組合への「申し入れ」が行われ、四月二七日にも、全国局長会議の「職場規律の総点検」の結果を踏まえた決定に基づき、再度、同趣旨の「申し入れ」が行われています。

労使確認の一方的破棄許すな

この「申し入れ」を一読すれば、この攻撃が単なる既得権剝奪のみに止まらず、軍事大国化政策のための障害物＝戦卑的労働運動を圧殺する攻撃の一環として、日本労働運動の戦卑的支柱としてある国鉄労働運動解体攻撃そのものであり、職場から労働運動を一掃しようとするものであることは明白です。この「申し入れ」は、「職場規律の総点検の結果」「職場規律の乱れが広く、かつ、深く、その内容においても、ヤミ休暇の日数管理職による金銭的負担等の事例に見られるように……あらためて深刻に受けとめていくところである」として、「①勤務関係、②作業、執務関係、③超勤等の手当全般、④現場協議」等々

および、職場のすべてにわたる、この間、労使で確認したものを一方的に破棄するという内容になっています。

「業務は二の次」と、極めて不当な政治的攻撃

誰でも知っているように、われわれの全ゆるる職場における労働条件は、連日、24時間に行ったり列車の運行を確保するという特殊性を基礎に、「仕事の内容」「要員数」「時間」「賃金・手当」等を総合的に勘案し、日鉄去、労働基準法などの諸法規に照らし、労使で協議して決定しています。従って、全ゆる「仕事の内容」は、常に総体の中の一環として見なければならぬことは当然です。にもかかわらず、今回の既得権剝奪攻撃は、「国鉄労働運動解体」のためには、「列車の運行

を確保することなど二の次という政府自民党の立場から出されてきているところに、問題の本質―極めて不当な政治的狙いがあるのです。

全職場から反撃の叫びを創り出そう！

このような攻撃に対し、国労・動労中央は、職場・生産点の気持とは違いとところから、「正すべきは正す」という方針しか提示できません。特に動労「本部」は、「働こう運動」なる反労働者的方針をもって当局への屈服の姿勢を増々強め、反合運動保安闘争、反マル生闘争でかちこつてきた労働条件を根こそぎ放棄し、職場を売り渡す先兵としての姿を露骨にし、反労働者の裏切り行爲を行ってきています。

動労千葉は、4月23日、オワ回支部代表者会議において、5月5・6月既得権剝奪攻撃と、6名の仲間に対する任意出頭攻撃に対し、職場生産点から即いに決起することを決定しました。

すべての組合員のみならず！

全く正当な組合活動たる説得オルグ行動に対してすら、これを監禁強要にデッ千上げる動労本部軍マル反動分子、そして2年前も前のそれに對し不当介入し、6名の仲間を任意出頭攻撃をかけたきでいる千葉県警。即ち動労千葉の圧殺を狙ってかけられしてきた刑事弾圧をはね返し、6名を防衛し、既得権剝奪攻撃を粉碎し、職場と生活を防衛するため、全職場から創意あふれる即いに決起しようではありませんか。